

ITU無線通信総会(RA-15)の結果について

国際電気通信連合 (ITU) 無線通信総会 (RA-15) の概要

RA (Radiocommunication Assembly) は、ITU無線通信部門 (ITU-R) の総会で、3~4年に一度開催。

【開催期間】 2015年10月26日 (月) ~ 30日 (金)

【開催場所】 スイス・ジュネーブ国際会議場

【参加者等】 約100か国の情報通信関係省庁、電気通信事業者、メーカーなど
約430名が参加。
日本からは、総務省、電気通信事業者を始め30名が参加。

【主な議題】 (1) 研究委員会 (SG) から提出された勧告案の承認
(2) SG等から提出された決議案の承認
(3) 次期研究会期における研究課題の承認
(4) SG等議長・副議長の任命



RA-15の会議構成

会合名	議長	内容
全体会合	橋本明氏 (日本・NTTドコモ)	RAにおいて行われる報告の最終確認及び審議事項に関する意志決定。
第1委員会 (COM1)	橋本明氏 (日本・NTTドコモ)	会議運営 会合の開催回数及びスケジュールを計画。
第2委員会 (COM2)	Mr. D. Obam (ケニア)	予算管理 総会期間中の支出の会計の審査及び承認、総会の決定事項の実施に伴う費用の見積もり等。
第3委員会 (COM3)	Mr. C. Rissone (フランス)	編集 RAの決議及び決定を全体会合に提出するにあたり、その意味を変えることなく調整。
第4委員会 (COM4)	Dr. S. Y. Pastukh (ロシア)	SGの構成及び作業計画 研究委員会(SG)の構成及び作業計画の審議、並びに必要があれば研究課題の一覧の修正。関連するITU-R決議の改訂若しくは新規決議案の提案。
第5委員会 (COM5)	Mr. C. Hofer (米国)	RA及びSGの作業方法 RA及びSGに適した作業方法を採択する。関連するITU-R決議の改訂若しくは新規決議案の提案。

SGから提出された勧告案の承認

前研究会期(2012~2015年)は、各SGで合計265件(新規および改訂)の勧告を審議・承認。RAでは、SGで合意に至らなかった7件を審議。4件の新規勧告、3件の改訂勧告を承認。

主な勧告の概要は以下のとおり。

■ VHF海上通信における新たなデータ通信方式(VDES)に関する新規勧告

VHF帯の周波数の電波を用いて船舶の運航に関する通信(船舶のメンテナンス情報や積荷等の情報)を行うため、船舶の安全運航に関する通信(航路情報、到着予定時刻等)に使用されているAIS(船舶自動識別装置)技術を用いた新たなデータ通信方式であるVDES(VHF Data Exchange System)の技術特性を定めたもの。

■ AMS(R)S(航空移動衛星(R)業務)の周波数要求量に関する新規勧告

衛星を用いた航空管制業務の安定的な提供に資するため、本業務のために必要な周波数幅の計算手法について規定するもの。

SG等から提出された決議案の承認

6件の新規決議、30件の改訂決議、5件の決議削除を承認。主な決議の概要は以下のとおり。

■ 2020年以降のIMT (International Mobile Telecommunications) の将来開発プロセスに関する原則に関する新規決議

2020年以降のIMT(5Gとそれ以降)の無線インターフェース勧告等の将来開発プロセスに関する原則(開発作業、進め方等に関するもの)について規定するもの。

■ IoT (Internet of Things) の発展のためのワイヤレスシステムとアプリケーションに関する新規決議

IoTのための無線ネットワークやシステムについて研究するために、ITU-T SG20やその他の標準化団体との協力や協調を実施すること等について規定するもの。

■ 世界無線通信会議(WRC)の準備会合に関する決議2の改訂及び規則／手続事項の研究に関する決議 38の削除

世界無線通信会議(WRC)の準備の一環として、規則／手続問題に関する事項を取り扱うために設置されていた特別委員会(SC: Special Committee)について、WRCの準備会合であるCPM(Conference Preparatory Meeting)の一部とすることを決定し、決議2の改訂及び決議38の削除を承認。

次期研究会期における研究課題案の承認

次期研究会期(2016年～2019年)における各SGの200件の研究課題を承認。

主な研究課題の概要は以下のとおり。

■ 地上系IMTのさらなる開発に関する研究課題

衛星系を除く地上系IMTについて、更なる高度化のための技術・運用上の課題や特性、周波数の効率的な利用と最適な周波数配置、新たなアプリケーション、端末の国際的流通等について研究する。

■ 放送のための高ダイナミックレンジテレビ(HDR-TV)システムに関する研究課題

映像のピーク輝度を従来よりも高め、表現できる明暗幅を拡大させることで映像をより鮮明に表現するHDR(High Dynamic Range)について、現行テレビサービスから将来のHDR-TVサービスへの移行に伴う技術的条件(システムパラメータ、既存システムとの互換性等)について研究する。

■ UHDTV(Ultra High Definition Television)衛星放送システムに関する研究課題

UHDTV衛星放送について、最新技術動向を考慮しつつ、大容量伝送を可能とする伝送方式や降雨減衰対策について研究する。

議長・副議長の任命

- 我が国から推薦していた以下の3名全員が次期研究会期の議長及び副議長に任命された。

SG6(放送業務) 議長 西田 幸博(NHK) 1期目

SG4(衛星業務) 副議長 河合 宣行(KDDI) 2期目

SG5(地上業務) 副議長 新 博行(NTTドコモ) 1期目

SG等の議長		
Study Group 1(周波数管理)	Mr S.Y. Pastukh	ロシア
Study Group 3(電波伝搬)	Mrs C.D. Wilson	豪州
Study Group 4(衛星業務)	Mr C. Hofer	ViaSat,Inc
Study Group 5(地上業務)	Mr M. Fenton	英国
Study Group 6(放送業務)	西田 幸博氏(NHK)	日本
Study Group 7(科学業務)	Mr J. Zuzek	米国
CCV	Mr Ch. Rissone	フランス
RAG	Mr D. Obam	ケニア
CPM	Mr K. Al-Awadi	UAE

全権委員会議PP
最高意思決定機関

(4年毎に開催)

無線通信部門(ITU-R)

無線通信総会 RA
研究課題設定、勧告の承認等

(3~4年毎に開催)

世界無線通信会議 WRC
無線通信規則の改正等

地域無線通信会議 RRC
地域における無線通信に関する協定等の協議

会議準備会合 CPM
WRCの準備

研究体制		研究委員会(SG)
SG1	周波数管理 議長: パスツーク(ロシア)	効率的な周波数管理の原則及び技術の開発、分配基準・方法、周波数監視技術、周波数利用の長期戦略等に関する研究
SG3	電波伝搬 議長: ウィルソン(オーストラリア)	無線通信システムの向上を目的とした、電離媒質及び非電離媒質中における電波伝搬並びに電波雑音特性に関する研究
SG4	衛星業務 議長: ホッファー(ヴィアサット(米国))	衛星業務に関する軌道/スペクトラムの有効活用、システム等に関する研究
	副議長: 河合 宣行氏(KDDI)	
SG5	地上業務 議長: フェントン(英国)	移動業務、無線測位業務、アマチュア業務及び関連するシステムとネットワークに関する研究
	副議長: 新 博行氏(NTTドコモ)	
SG6	放送業務 議長: 西田 幸博氏(NHK)	一般大衆に向けて配信することを目的とし、映像、音声、マルチメディア及びデータサービスを含む無線通信による放送(地上系)に関する研究
SG7	科学業務 議長: ズゼック(米国)	時刻信号及び標準周波数報時、宇宙無線システム、地球探査衛星システム及び気象に関する事項、電波天文業務等に関する研究

RAG 無線通信アドバイザリグループ
議長: オバム(ケニア)
ITU-Rの作業の優先順位及び戦略等の見直し、作業計画の進捗状況の評価

※ 下線は2期目

